

## 今のびている新しい野菜

## ミズナの品種と栽培特性

～生物資源部



小株どり用に適した「京みぞれ」

最近、京都で伝統的に栽培されてきた「ミスナ」を小株(若)取りして、サラダ用として利用する新たな食材開発が進みました。

そこで当所では、8月下旬から10月下旬までの間には種する秋まき露地栽培(パンチフィルム被覆)で、小株どり用新品种と伝統的な大株どり用「千筋京水菜」の主要10品種についての栽培試験を行いました。

施肥は基肥のみ(窒素成分で10a当たり8kg)で、120cm幅のベッドを作って、条間15cm、株間5cmで1粒まきし、間引きせずにそのまま一気に育て、草丈が30cmになった段階で収穫しました。

その結果、生育には大きな品種間差はありませんでしたが、「京みぞれ」は葉柄が細くて白く、葉の切れ込みが深いだけでなく食感もよいなど小株どりに最も適していることがわかり、今後は直売などの販売が期待されます。

ミズナ品種の秋まき栽培における生育特性

品 種	1株重	草丈	莖数	葉柄 径	SPAD値	収量
	g	cm	本	mm		kg/m <sup>2</sup>
<小株どり用品種>						
京みぞれ	73	40	68	2.7	27.9	4.1
四季細菜	84	41	68	2.8	24.4	5.1
シャキさら	85	42	63	2.9	24.6	4.8
はりはり水菜	89	41	61	2.8	24.6	6.2
のってる菜	99	41	66	2.9	26.6	4.9
<大株どり用品種>						
早生丸種	94	43	59	3.1	25.0	5.5
千筋京水菜 ナント	94	43	51	3.4	26.4	4.0
千筋京水菜 トーホク	89	41	28	4.8	31.0	4.5
白莖千筋京水菜	106	44	19	5.7	31.7	6.5
緑扇2号	145	41	18	11.6	35.8	5.9

SPAD値は葉色の濃さを表しています。